

二世豊竹古靱大夫床年譜 (十四)

轉載不許

年

次

劇場並に狂言

古靱大夫に關する記事

淨瑠璃界一観

大正十一年

六月十日初日
(二十二日間)

前 伊賀越道中双六 大序より
近頃河原の連引 八ツ目迄
堀川の段迄
切鬼一法眼三略巻 五條橋之段

七月十四日初日
(七日間)

地方巡業
名古屋 末廣座
(人形入)

七月廿一日初日
(三日間)

静岡 歌舞伎座

七月廿四日初日
(三日間)

四日市 湊座

八月一日初日
(六日間)

大阪 浪花座

八月九日初日
(七日間)

京都 南座

九月十六日初日
(二十三日間)

前 生寫朝顔話 文樂座
大序より
大井川迄
天神堤より阿彌陀寺之段迄

役場 (初役) 沼津里之段切
三味線 二世豊澤新左衛門
ツレ (一日替) 廣太郎

一座
古靱大夫、源大夫、相生大夫、源
路大夫、つばめ大夫、文大夫、辰
大夫、源子大夫、新左衛門、勝
友之助、小綱、清二郎、友衛門、
新三郎、勝三、友六、友衛門、
(人形部) 文三、文五郎、紋三、玉
七外大勢

古靱大夫は名古屋興行千秋樂前日より病氣となりしも、これをおして京都興行迄を勤め、爾後巡業は休座す

役場 (四度目) 濱松之段奥
三味線 二世豊澤新左衛門

是にて夏休。

七月六日より十一日迄第一回向上會
「菅原傳授手習鑑」大序より四段目迄
「境浦兜軍記」阿古屋翠貴
夏休み中、人形部楠竹紋三歿す。

七月廿八日、豊澤富十郎(本名榎本龜吉)歿す。法名釋觀道、行年七十八。當代豊澤豊之助の父なり。
本興行より津大夫、友次郎加入。

豊澤仙糸久々にて出座、竹本彌大夫を弾く。

十月二十日初日
(二十四日間)

次 宿無國七時雨傘 岩井風呂之段
忠臣連理の鉢植 植木屋之段

文 樂 座

近松門左衛門翁二百年記念興行

前 釋迦如來誕生會 大序より太子
難行之段迄

中 新作榮樂の榮華 酒宴之段より
奥殿の段迄

切 博多小女郎浪枕 船之段より追
分立場之段迄

十一月十九日初日
(十五日間)

同 座

前 源平布引瀧 大序より
紅葉山之段迄

中 心中天網島 紙屋内之段迄

切 新版敬祭文 野崎村之段より
道行之段迄

東京 新富座

十二月五日初日
(七日間)

大正十二年(十六歲)
一月二日初日
(二十七日間)

前 繪本太功記

文 樂 座
大序より
尼崎之段迄

役場 (初役) 博多柳町之段切
三味線 二世豊澤新左衛門

役場 (二度目) 野崎村之段切
三味線 二世豊澤新左衛門
ツレ 鶴澤友之助

一座
津大夫、友次郎、古親大夫、新左
衛門、源大夫、吉勝、源路大夫、小
六、静、辰め大夫、新三郎、文若大
夫、新吾、島大夫、新三郎、文若大
友吉、郡信二郎、勝太郎、勝若大

役場 (初役) 尼ヶ崎之段切
三味線 豊澤新左衛門
本興行より立狂言の切場を語る。

近松翁歿後二百年は明大正十二年に
相當するも一年を取越したるものな
り。

是にて冬休。

二月六日初日
(二十日間)

中 薙景清八嶋日記 花菱屋より
日向島之段
次 攝州合邦辻 合邦内之段
増補大江山 戻り橋之段

同座

前 伽羅先代萩 御殿之段迄

中 伊賀越道中双六 沼津里之段

切 桂川連理櫓 道行之段迄

三月六日初日
(二十日間)

同座

義經千本櫻 大序より道行迄

島山古跡松 右大臣豊成館之段より

四月一日初日
(二十三日間)

同座

前 本朝廿四孝 大序より四段目迄

中 郎郷の枕 島原揚屋之段

切 東海道蔭栗毛 赤坂並木より
古寺之段迄

播州三木町 大正館

四月二十日初日
(三日間)

六日目より風邪の爲め、一部を靜大
夫の代役となりしも打揚げ迄休演せ
ず

役場 (四重目) 埴生村之段切

三味線 二世豊澤新左衛門

役場 (二度目) 渡海屋之段切

三味線 二世豊澤新左衛門

役場 (初役) 郎郷の枕島原揚屋之段

三味線 六世廣助事名庭

ツレ 絃阿彌 新左衛門

鶴澤叶 外

三木町三木銀行創立三十年記念祝賀
一行備

古親大夫、新左衛門、鍛大夫、團
六、靜大夫、吉彌、嶋大夫、狼太
郎、つばめ大夫、清二郎、辰大夫
新三郎、越登大夫、團二郎、千鳥
大夫、辻大夫、木村、辰五郎、玉七、
(人形部) 辰五郎、文五郎、玉七、
玉松外大勢

役場「先代萩御殿」は伊達大夫病氣に
て鍛大夫千秋樂迄代役を勤む

六世豊澤廣助、杉山其日庵氏の配慮
に依り近衛公爵家より名匠絃阿彌の
名を授與せられ本興行「郎郷の枕」
に於て改名披露を行ふ。同前は當年
八十二歳也。

五月一日初日
(二十三日間)

文 樂 座

前 加賀見山蓑錦繪 大序より

中 御所櫻堀川夜討 辨慶上使の段

次 伊達娘戀緋鹿子 八百屋内の段

切 壇浦兇軍記 翠實の段

六月一日初日
(二十日間)

同 座

前 双蝶々曲輪日記 大序より

中 日吉丸稚櫻 小牧山城中之段

切 極彩色娘扇 靱永代漬より

増井之段迄

東 京 新 富 座

名庭絃阿彌改名披露興行

第一回(四日間)

義經千本櫻

近頃河原達引

第二回(四日間)

菅原傳授手習鑑

假名手本忠臣蔵

伊達娘戀緋鹿子

役場 (初役)草履打之段

掛合 三味線 豊澤猿糸

(初役)八百屋内の段切

三味線 二世豊澤新左衛門

役場 (三度目)引窓の段切

六月廿八日 三味線 二世豊澤新左衛門

す。法名妙美聖女

一座 名庭絃阿彌、津大夫、友治郎、古

親大夫、新左衛門、源大夫、吉彌、島

鍛大夫、圓六、靜大夫、猿太、つ

ばめ大夫、友衛門、源路大夫、新

二太郎、文大夫、八造、辰大夫、吉

野榮二 津若大夫、勝造、友吉、吉

(人形部) 玉藏、文五郎、文三外大

役場 勢 堀川猿廻しの段

八百屋内の段

本興行限り古親大夫は新左衛門と別

れ盆替り興行より鶴澤徳太郎改メ四

世鶴澤清六をその合三味線に迎ふる

豊澤竹三郎、五世豊澤猿糸を相續。
役場、草履打之段にて。津大夫、土
佐大夫等顔を描へたり。

是にて夏休み。

六月廿六日より(六日間)第二回向上
會開催